



捕獲したトンボに見入る子どもたち

親子ら動植物採集楽しむ

大鰐で白神バイオブリッツ

専門家と親子ら一般市民が一緒に生物調査を行うイベント「白神バイオブリッツ」が20日、大鰐町のあじやらの森キャンプ場周辺で始まった。決められた地域

の動植物や昆虫などを24時間わたって採集、観察して記録するもので、参加者約170人は捕虫網や虫籠などを手に草地や沢、林を巡り採集を楽しんだ。同日午後5時現在、計563種が確認された。21日午前11時まで行われる。

弘前大学農学生命科学部附属白神自然環境研究センター(中村剛之センター長)が主催。鯉ヶ沢町、西目屋村、深浦町に続き今年で4回目。本県と秋田県を中心に北海道や富山県、東京都などから親子連れら約80人、県外の専門家や津軽植物の会、白神キノコの会、津軽昆虫同好会、日本野鳥の会弘前支部、コウモリの保護を考える会、弘前大学生ら約90人が参加した。

キャンプ場周辺は白神山地から連なる山々の東端に当たり、スギなどの植林地や草地が中心の地域。参加者は昆虫や植物、キノコ、脊椎動物など分野ごとにグループを作って周辺を探索。捕まえた生き物の名前

や生態を専門家に尋ねたり採集の手法を間近で見たりして学びを深めた。採集後は本部で同定作業を実施。調査結果は年度内に報告書にまとめる予定だ。

4年連続で参加している弘前大教育学部附属小学校6年の千石淳君は「知らない虫の生態が分かるのが楽しい。気が付いたら時間がたっていた」と笑顔。母の佳織さん(45)は「子どもに付き合っているうちに昆虫など生き物に興味を持つようになった」と目を細めた。(鈴木滋)

この画像は、当該ページに限って”陸奥新報”の記事利用を許諾したものです。
転載ならびにページへのリンクは固くお断りします。